

授業概要

本科目では『源氏物語』をそれぞれのテーマごとに応用的な視点から切り開く内容で講義する。『源氏物語』を約千年後の令和時代に読むことを意識しながら、それぞれのテーマが現代ではどのように映るかを常に意識して講義を進めたい。例えば「垣間見（かいまみ）」はこの物語の描かれた平安物語の男女の出会いを彩るものとして美しく絵画にも描かれているが、令和時代では読みも変わってこよう。このような考えの元、現代の我々が抱える様々なテーマ（問題点）とシンクロさせつつ講義を進めていく予定である。また後半の数回は研究の最前線の問題を取り扱いたい。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション。受講の注意。基礎知識の確認
第 2 回	父との関係—光源氏と桐壺帝
第 3 回	母との関係—光源氏と「むらさきのゆかり」
第 4 回	兄との関係—朱雀院と源氏と朧月夜
第 5 回	息子との関係—夕霧と大学入学・大学教育
第 6 回	自分を支える目立たない女性—花散里という女性
第 7 回	優等生とストレス—紫の上の発病
第 8 回	魔物が巣くう廃屋—夕顔を襲ったものはなにか
第 9 回	憑依（ひょうい）するものとの闘い方—六条御息所
第 10 回	貴族たちの就活—男性貴族・女性貴族それぞれの相違
第 11 回	『源氏物語』の続編はあるのか—『雲隠六帖』『山路の露』などの中世の作品とは
第 12 回	『源氏物語』と伝本—3系統に分かれた歴史と評価
第 13 回	『源氏物語』の禁忌と評価—上下した歴史をたどる
第 14 回	青表紙本以外の伝本で考える女三宮論
第 15 回	全体のまとめ
第 16 回	期末レポート

到達目標

- ① 講義で取り扱った場面の古文を正確に読み解き現代語訳をつくることができる
- ② 古典文学を通して古代の日本の文化や概念を理解することができる

履修上の注意

「日本文学講読（古典）Ⅰ」は『源氏物語』の概論的科目であり、本科目の理解に役に立つので受講しておくことが望ましい。その他古典文学関連科目は受講しているとわかりやすい。ただ出席するのではなく熱心に前向きに受講する必要があるのは言うまでもない。

予習・復習

予習：毎回授業の最後に次の授業の参考文献／資料を指示するので、それについて目を通しておくこと
復習：授業後に残った疑問点は資料を読み毎回持ち越さず解決しておくこと

評価方法

期末レポート70%・受講態度30%で総合的に評価する。

テキスト

特にあらかじめ学生個人が用意する必要はない。ただし原文及び現代語訳付きはもっておくと講義の内容がわかりやすくなるので、文庫本でいいのでもつことをおすすめする。特に卒論で『源氏物語』を考えている場合は『小学館』『岩波』『新潮』などで徐々に揃えていってほしい。参考文献としては河添房江・松本大編『源氏物語を読むための25章』（武蔵野書院 2023年）などをお薦めする。